

**信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果**

プログラム名	信州大学 オーストラリア ニューカッスル大学研修		
学部・研究科名	国際交流センター（現グローバル教育推進センター）		
実施期間	2014年8月24日～9月13日		
研修先(国・都市・施設名)	オーストラリア ニューカッスル大学		
参加学生数	22名	知の森基金からの支援者	22名
プログラム概要	英語によるコミュニケーション力および異文化理解力を向上させるため、英語ネイティブ国、且つ、多民族国家であるオーストラリアで行ったプログラム。オーストラリア国内トップ10に数えられる有力大学、ニューカッスル大学の附属英語学校での英語クラス及び様々なトピックのレクチャーを受講し、またホームステイによる生活体験を通じて学生が海外生活および留学への自信をつけ、今後のより長期的な留学への意欲を向上させることを狙いとする。		

実施状況・成果

このプログラムでは、必ずしも英語に自信を持っているとはいいがたい信州大学の学生に、とにかく英語に触れさせて英語への恐怖心をなくすこと、継続した英語学習スタートのきっかけを作ることを目指した。

その結果、以下の学生の声①にあるように「外国人と気兼ねなくコミュニケーションが取れるようになった」という感想を多く聞くことができた。まだコミュニケーションに支障がないレベルには至らなかったものの、開始することに躊躇しない学生を増加させることができた点は成果と言える。

また、サウジアラビアなど日本同様に英語を母語としない国から来た留学生と同クラスになり、彼らの学習姿勢、人生の夢・目標などを話し合う機会があったことは信大生に大きな刺激となったようであり、漠然と生きている自分の姿勢をふりかえる機会となった。また、豪州の人々のフレンドリーな姿勢、外食などが高価な点、自然と気候などについてコメントした信大生も多く、彼らの異文化理解促進につながった。参加者の中から1学期間または2学期間の交換留学に挑戦する学生が出てくることを期待している。

なお、現地で自分の英語の通用する部分と通用しない部分（姿勢も関わる）があることを認識した参加者は、継続した英語学習の重要性について気づきを得ており、それを実践している者がいると思われる。

学生の声①ー教育学部 学生

私は将来、英語を子供に教えることで自分と違う文化や言語をもった人と仲良くできる、いじめのない心の広い子供が育ってほしいと思っていますが、実際、これまで自分自身外国人を目の前にすると少し抵抗を感じることがありました。しかしこの研修に参加し、友達やホストファミリーと英語で話すことによりまったくそんな抵抗はなくなりました。3週間で劇的に英語のスキルを上げることは難しいと思いますが、外国人と気兼ねなくコミュニケーションが取れるようになったことは一番の収穫でした。そして自分の語学力をもっと上げるため、交換留学など長期の留学にも挑戦したいと思うようになりました。

学生の声②ー経済学部 学生

私の英語のクラスは12人の少人数で、私以外のほとんどがサウジアラビアや中国など異なった国籍の学生でした。みんな向上心が高く、将来の自分についての明確な目標を持っていました。日本人は協調性を大事にするといわれますが、自分の意見を言わない、授業も座っているだけ、答えがわかっていても恥ずかしくて手を上げないという学生が多く、このままでは私たちが世界中の人たちと並んで競いながらグローバルに活躍できる日は遠いと感じました。私はこの研修を通じ、自主性・積極性がいかに大切かを学び、クラスメートと過ごすことによってそれらを得ることができました。オーストラリアでの暮らしはこれまでの保守的な考え方を換え、またあらたな発見として自分が思っていた協調性の大切さは本当の協調性とは違うと感じさせてくれました。

オーストラリア ニューカッスル大学 現地の様子

